

自動で姿勢制御 ミニ自転車開発

玉野の企業今春発売

玉野市の企業が、高等専門学校や大学などの教材用として、ユニークなミニ自転車を開発し、今春から販売を始める。卓上サイズながら、自動で姿勢を保ちつつ倒れずに走行するコンピュータ制御システムを搭載。同社は「動く教材で、楽しみながらプログラミングの基礎を身に付けてほしい」としている。（内田光祐）

配電盤・モーター・タマデモーター2個を動かす。ン工業（同市玉原）が開発したミニ自転車（試作機）は、全長20センチ、高さ17・5センチ、倒れそつになると自動的に傾いた方向と反対

特許取得済み。今春には千台を出荷する計画で、製造は東京の無線操縦メーカーに委託。価格は1台4万円程度を予定している。商品名は未定。光センサーの受信機を備え、リモコン操作もできるため、玩具として無線操縦専門店でも販売することも検討している。

樹脂製で、タイヤは直径7センチ。単4乾電池4本で、ハンドルを切って転倒

「プログラミング教材に」

を防ぐ。出荷時は平らな道を直進するよう設定しており、ハンドルの角度を計算するプログラムを書き換えることで、8の字を描いたり、坂道を上ったりと、さまざまな動きができるようになる。

御機器に携わる技術者や理工系学生向けの入門書を発行。開発を主導した武下博彦取締役は「若者の理系離れが問題になる中、ものづくりを支える人材育成に役立ちたいとの思いで取り組んだ。普及すれば、さまざまな制御技術を競う大会を開きたい」と話している。

教材用として今春発売するミニ自転車（試作機）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。